

総 評



宮内 泰介

北海道森林・山村多面的機能発揮対策地域協議会会長

ご発表をどうもありがとうございました。どの団体にもすでに分厚い、短い時間では語りきれないほど豊富な物語のあることがすごく分かりましたし、ひとつの団体でそれぞれ1冊ずつ本ができそうだな、と感慨深く、また印象深く感じながら聞いておりました。

お話をうかがいながらメモしたキーワードが4つあります。「森づくりのステージ」「楽しみ方の工夫」「適正な技術」、そして「コミュニティ、あるいは人々のつながりの再生」の4つです。

「硫酸山の森を育てる会」の活動にはびっくりしました。強酸性土の禿げ山だった場所を、10数年ですであれだけの森に再生させたことに驚きましたし、それをさらに理想の森に育てていくステージに差し加かっておられる。

ステージごとに「これからどこに向かっていくのか」を定めることは、どんな森づくりにおいても大切なことでしょう。下島さんたちは第2ステージとして、「楽しむことができる森」という短期的な目標と、「北海道らしい素敵な針広混交林」という長期的な目標を見据えておられます。最初は一人だったのに、今では多くの人を巻き込んで活発化している、という点も印象的でした。

いっぽう、「かみかわ里山ネット」の活動はまさに熟練の、と言いますか……。森林の多面的機能と呼ばれるうち、全てではないにせよ、かなりの部分がこの森で実現されているな、と感じました。山本さんは「実習フィールド」と呼んでおられましたが、トレーニングの場でもあり、楽しみ場でもあり、どの技術が適正なのか見極める場でもあり。いろいろな側面をゆっくりじっくり確実にこなしながら、またその方法論をさらにいろいろなところへ広げようとしているとうかがって、たいへん感銘を受けました。

技術はとても大事だと思うんですね。技術は一つではなくて、異なる技術ごとにいろいろな可能性があって、それぞれの環境、ステージ、あるいは人びとの状況に合った技術があるはずですよ。お互いの交流を通して、自分たちに最適な技術を見つけていくことの大切さを、私も教えていただきました。

「苫東・和みの森運営協議会」の活動も、すごくおもしろ

い展開でした。ご苦労もあつたでしょうし、いろいろな試行錯誤があつたと思いますが、最初「いったい何がやれるだろう？」というところから出発して、やれることからやり始めたらいろいろな可能性が出てきた。その可能性を一つずつ試してみたら、「しまいにはお母さんたちが積極的に参加するようになった」とのこと、とどんどん良い方向に向かいだした。

先ほど、「コミュニティの再生」をキーワードに挙げました。ここで私が言うコミュニティとは、もともとあつた地域社会のみならず、新たに作られるものも含んでいます。人と人の新しいつながりは、決して大きな単位である必要はありません。それが新たに作られる、あるいは再生されるプロセスに、森づくりが結びついている。それが3つの事例すべてに共通していると思いました。「森づくり」は、「仲間づくり」「人づくり」、そして「コミュニティづくり」でもあるんだな、と改めてわかりました。

きょうご発表の3団体はいずれも、「森林・山村多面的機能発揮対策事業」初期からの参加団体で、活動自体はそれ以前から続けてきている方々ばかりでした。こんなふうな、いろいろなところで多様な目的・多様な方向性を持った活動がなされることによって、北海道の森がより豊かになっていると思います。「森が豊かになる」というのは、単に森林面積が増えるというだけの意味ではありません。森に関わる人が増え、人と人の関係がより豊かになる、そんなことも含めた豊かさです。この報告会も7回を数えますが、過去の報告事例を私ども協議会のホームページに掲載していますので、ぜひそちらも合わせてご覧いただいで、お互いの体験交流に役立ててもらえたらと思います。

私は役得で、毎回こうやってみなさんの報告をうかがって最後に総評する役割を仰せつかっていますが、学び合うことがすごくたくさんあるな、と毎年思います。協議会としても、みなさんの体験を踏まえながら今後の支援について考えていきたいと思っています。そしてこれからも北海道各地のみなさんの活動に大いに期待しています。

みなさん、どうもありがとうございました。